

2019年度（対象年度：2017-2018年度）ピアレビュー報告書

評価対象組織	教育学研究科
--------	--------

基準1	理念・目的
-----	-------

総評	
0101	大学の基本理念・使命・教育目的を踏まえ、研究科の教育研究上の目的を適切に設定しているかの確認を行っている。研究科の教育研究上の目的を元に作成された「DP」が、大学の基本理念を踏まえたものになっている[0101b][0101c]。大学の基本理念を5つの要素に分解し、研究科のDPと対応づけてしており、分かりやすい。
0102	研究科の「教育研究上の目的」は学則、学生便覧に明示するとともにホームページ上に公開している[0102a]。大学院教授会配付資料に研究科の「学修教育目標」を記載する方法で大学院担当教員に周知していることは他の研究科も参考にできる[0102b][0102c]。
長所・特色	
0101	大学の基本理念を5つの要素に分解し、研究科のDPと対応づけている。
0102	大学院教授会配付資料に研究科の「学修教育目標」を記載している[0102b][0102c]。
留意点	
*各項目に留意点レベルを記入	
	【A】・・・緊急の改善を要する事項 【B】・・・検討を要する事項
0101	研究科の「教育研究上の目的」に対しても大学の基本理念等を踏まえたものになっているか確認する必要がある。【B】

ピアレビュー委員会（第4部会）

2019年度（対象年度：2017-2018年度）ピアレビュー報告書

評価対象組織	教育学研究科
--------	--------

基準2	内部質保証
-----	-------

総評	
0203 教育学研究科の内部質保証は、主に本学で実施している自己点検・評価活動によって行われている [0203a][0203b]。また、文部科学省の現地視察も受けており [0203c][0203d]、外部評価を取り入れた状況となっている。内部質保証は有効に機能していると判断された。	
長所・特色	
0203 教育学研究科の内部質保証は、主に本学で実施している自己点検・評価活動によって行われている [0203a][0203b]。また、文部科学省の現地視察も受けており [0203c][0203d]、外部評価を取り入れた状況となっている。	
留意点	
*各項に留意点レベルを記入	【A】・・・緊急の改善を要する事項 【B】・・・検討を要する事項
0203 外部評価の結果を受けて、どのような改善計画を立て、実施をしたかという記録を確認することができない。PDCA サイクルを回して、内部質保証システムが有効に機能していることを示す根拠資料を示す必要がある。 【B】	

2019年度 (対象年度: 2017-2018年度) ピアレビュー報告書

評価対象組織	教育学研究科
--------	--------

基準4	教育課程・学習成果 (2)
-----	---------------

総評	
0404	学生の学修を活性化し、効果的に教育を行うため措置を講じている。院生数が少ないため演習形式の授業を実施している。院生と指導教員とが密接に連絡を取り合い、研究内容に応じた計画を作成している[0404a][0404b]。
0405	成績評価、単位認定および学位授与は適切に行っている。シラバスに記載された評価方法に基づき評価を行っているが、評価の客観性・厳格性を担保するシステムも必要であることを認識している。修士論文の書式、審査基準を明示していることは、評価の客観性・厳格性の上から評価できる[0405d]。
長所・特色	
0405	修士論文の書式、審査基準を明示している [0405d]。
留意点	
*各項に留意点レベルを記入	
	【A】・・・緊急の改善を要する事項
	【B】・・・検討を要する事項
0404	授業内容とシラバスとの整合性を確保する必要がある。【B】
0405	成績評価の客観性・厳格性を確保する方法を検討する必要がある。【B】

ピアレビュー委員会（第4部会）

2019年度（対象年度：2017-2018年度）ピアレビュー報告書

評価対象組織

教育学研究科

基準4

教育課程・学習成果（3）

総評

0406 修了認定・学位授与方針（DP）に明示した学生の学習評価については、所属院生が少なく、個別的な把握および評価になることはやむを得ないため、適切に把握および評価をしているかを根拠資料によって評価することは困難である。

0407 教育課程およびその内容、方法の適切性については、定期的な自己点検・評価と、その結果をもとにした改善・向上に向けた取り組みを実施していることが確認できた[0407a][0407b][0407e]。

長所・特色

0407 教育課程およびその内容、方法の適切性については、定期的な自己点検・評価と、その結果をもとにして大学院教育活性化のために必要な院生数の確保に資する教育課程の見直しに取り組んでいることが確認された[0407a][0407b][0407c][0407e]。

留意点

*各項に留意点レベルを記入

【A】・・・緊急の改善を要する事項

【B】・・・検討を要する事項

0406 学習成果の把握と評価については、所属院生が少ないため得てして個別対応になってしまうことと、専門分野が多岐にわたるため、研究科としての統一的な指標や測定方法を定めることは困難であるとのことであった。今後とも多様なニーズに対応できる「院生ベースのコアカリキュラム」実現にむけて模索と実践を継続されたい。

【B】

2019年度（対象年度：2017-2018年度）ピアレビュー報告書

評価対象組織	教育学研究科
--------	--------

基準5	学生の受け入れ
-----	---------

総評	
0501	教育学研究科 WG によって AP・DP・CP が定期的に確認されており、大学院入学希望者には個別面談の機会等が与えられ、入学生受入体制は整っている。教育学研究科 WG が毎月大学院教育について検討の場を設けていることから教員が大学院教育に熱心であることが伺える [0501a] [0501b]。
0502	AP に基づき、公平・公正な入試となるべく研究科内で編成されたチームがこれに取り組んでいることから AP に基づいた入学者選抜に必要な能力判定基準が教員間で共有されていることは評価できる。
0503	定員に対して受験者・入学者が少ないことが認識され、C 評価がつけられている。抜本的取り組みに期待したい。受験者・入学者が少ない現状に関して抜本的な対策の必要性が記載されているが、大学教員の研究分野を開示することも含めてリクルートにつながる何らかの工夫の検討が必要である。
0504	大学院受験者獲得のための大学院入試説明会の日程を意図的に調整する工夫がなされ、そこで AP は入学希望者に適切に理解共有されている。他大学の大学院が提供する内容（資格系）に匹敵すべく研究科の充実化がさらに望まれる [0504a]。
長所・特色	
0501	教育学研究科 WG が毎月大学院教育について検討の場を設けていることは教員が大学院教育に熱心であることが伺える [0501b]。
留意点	
*各項に留意点レベルを記入	
	【A】・・・緊急の改善を要する事項 【B】・・・検討を要する事項
0503	受験者・入学者が少ない現状に関して抜本的な対策の必要性が記載されているが、大学教員の研究分野を開示することも含めてリクルートにつながる何らかの工夫の検討が必要である。【B】
0504	他大学の大学院が提供する内容（資格系）に匹敵すべく研究科の充実化がさらに望まれる。【B】

2019年度（対象年度：2017-2018年度）ピアレビュー報告書

評価対象組織

教育学研究科

基準6

教員・教員組織

総評

0602 教員組織の編成に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するための、概ね適切な教員組織を編成している。

0604 現代教育学部と共催するなどし、FD活動を積極的に行っているが、効果の検証も必要ではないか [0604a][0604b]。

0605 教員組織の適切性について定期的に自己点検・評価を行っていることは評価できる。大学院生の研究指向性に柔軟・迅速に対応し、大学院の規模に応じた運営ができていることも評価できる。大学院WGで集中的に企画・推進した多くの活動に関する根拠資料が必要である [0605c]。

長所・特色

特になし。

留意点

*各項に留意点レベルを記入 【A】・・・緊急の改善を要する事項
【B】・・・検討を要する事項

0604 FD活動の効果の検証も必要ではないか。【B】

0605 大学院WGで集中的に企画・推進した多くの活動に関する根拠資料が必要である。【B】

ピアレビュー委員会（第4部会）

2019年度（対象年度：2017-2018年度）ピアレビュー報告書

評価対象組織

教育学研究科

基準7

学生支援

総評

0702 院生への支援は、多様な院生に対応する必要があることから、指導教員や研究科内担当教員、キャリア支援課と連携を行いながら実施しているものの、体制整備には問題を有していることが確認された [0702a]。

長所・特色

0702 多様な院生ニーズに対応するための定期的な面接活動を実施している [0702a]。

留意点

*各項目に留意点レベルを記入

【A】・・・緊急の改善を要する事項

【B】・・・検討を要する事項

0702 院生への支援は、現時点ではキャリアセンターが実施する全学的な就職支援プログラムに依拠している。院生の希望に応じてキャリアセンターとも連携しつつ、研究科独自のインターンシップ・プログラム実施に向けて整備を進めていただきたい [0702a]。【B】

ピアレビュー委員会（第4部会）

2019年度（対象年度：2017-2018年度）ピアレビュー報告書

評価対象組織

教育学研究科

基準8

教育研究等環境

総評

0802 教育学研究科は、教育研究環境に関しては、研究科内で院生には専用の研究室が与えられており、プリンター・図書も必要最低限は確保されており、定期更新していく姿勢もみられる[0802a]。

0806 教育研究等環境についての定期的自己点検が行われ、院生からも要望を聴き取るなど教員の間で環境改善の取り組みへの意識の高いことが評価できる。教育研究等環境整備には予算の制約もある中で、優先順位をWG構成員で決め、計画的に整備充実がすすめられている。院生室の登録図書リストも作成されている[0806a]。

長所・特色

0802 院生数に対して適切な教育研究環境が整備されている[0802a]。

0806 教育研究等環境整備には予算の制約もある中で、優先順位をWG構成員で決め、計画的に整備充実がすすめられている。院生室の登録図書リストも作成されている[0806a]。

留意点

*各項目に留意点レベルを記入

【A】・・・緊急の改善を要する事項

【B】・・・検討を要する事項

0802 時代に即した学習環境の整備充実が望まれる。【B】

2019年度（対象年度：2017-2018年度）ピアレビュー報告書

評価対象組織	教育学研究科
--------	--------

基準9	社会連携・社会貢献
-----	-----------

総評	
0902	院生が少ないため研究テーマに対応した形で、社会貢献、国際交流等を実施している[0902a]。
長所・特色	
0902	修士論文研究において社会貢献を実施している[0902a]。
留意点	
*各項に留意点レベルを記入	【A】・・・緊急の改善を要する事項 【B】・・・検討を要する事項
特になし。	

ピアレビュー委員会（第4部会）

2019年度（対象年度：2017-2018年度）ピアレビュー報告書

評価対象組織	教育学研究科
--------	--------

基準 11	大学独自の評価項目
-------	-----------

総評	
1120 研究科委員会の議事録等が整備されており、持続的に安定した活動ができる体制が整っている[1120a]。また、毎月大学院 WG を開催しており、院生のニーズに迅速に対応できる体制が整備されている。	
長所・特色	
1120 研究科委員会の議事録等が整備されている[1120a]。また、大学院 WG を開催しており、院生のニーズに迅速に対応できる体制が整備されている。	
留意点	
*各項目に留意点レベルを記入	【A】・・・緊急の改善を要する事項 【B】・・・検討を要する事項
特になし。	